

電気診断 (electrodiagnosis, EDX.) あるいは電気診断医学 (electrodiagnostic medicine) は本邦を含め、現在世界的に広く利用される電気生理検査を、有機的に組み合わせ、神経学的巣診断を行うことを目的とした医学分野の一つである。本邦では従来、同検査は技師がルーチン化された内容で施行することが多い。しかし、複雑な神経学的巣診断を求められる症例は、神経症候学・神経学的診察の入念な評価に基づいた自由な検査計画とその総合的評価が必要であり、そのための専門的知識および技術を習得した医師によって施行されるべきである。したがって、EDX. はあくまで臨床医学の一分野であり、時間的問題等で技師の協力が欠かせない場合があるものの、最終的には専門医 (電気診断医) によって結論を下される。本会では腰椎穿刺後に遅発性に出現した神経根障害の症例を元に、EDX. の実際について御紹介したい。

4. 難治てんかんの16歳男児にケトン食を導入し、発作改善と薬剤整理に成功した1例

(東京女子医科大学小児科)

中務秀嗣・

小国弘量・西川愛子・平野嘉子・伊藤 進・

石垣景子・舟塚 真・永田 智

〔目的〕ケトン食療法は難治性てんかんの治療の一つだが、年長児で選択されることは少ない。今回ケトン食療法にて薬剤整理に成功した症例を経験したので報告する。〔症例〕16歳男児。出生時仮死あり、その後精神運動発達遅滞を来した。2歳時より有熱時けいれんを認めた。9歳時より眼球右方偏位、右への向反発作が出現した。脳波では右前頭～中心部のてんかん波、頭部MRIでは両側中心後頭部の癥痕化を認めた。各種抗てんかん薬を内服するも発作が多く、16歳時に当科紹介となった。初診時8剤の抗てんかん薬を内服していた。脳波では背景脳波の徐波化と両側前頭優位の全般性または多焦点性てんかん性異常を認めた。ケトン比4:1, 1800 kcal, 蛋白40 gの古典的ケトン食を導入し、発作は減少、脳波上てんかん波が減少し、背景脳波も改善し、抗てんかん薬を3剤まで減量可能となった。〔結論〕ケトン食療法は、年長児の難治てんかん治療にも有効であると考えられた。